

試験運行2年目が10月からスタート。
まちなか線を往復運行から周回運行に、運賃を200円均一に。

町のバスを見直します

すまいるバス（コミュニケーションバス）や、もやいたクシー（予約型乗合タクシー）の見直し案がまとまり、10月からの実施に向けて動き始めました。すまいるバスまちなか線の周回運行や一律200円の均一運賃を導入するなど、今までの運行方法から大きく変わることにあります。今月は、その概要についてお知らせします（見直し案は、7月5日に開催された地域公共交通活性化協議会で取りまとめられた素案であり、今後変更されることもあります）。

見直しを4つの方向性と 具体案で取りまとめ

町では、昨年10月から運行をスタートした、すまいるバスと、もやいたクシーの見直しを進めています。この見直しは、鞍手町地域公共交通総合連携計画に基づく3年間の試験（実証）運行の中で行われるもので、地域公共交通活性化協議会で協議を重ねてきました。見直し案は、次の4つの方向性と4つの具体案としてまとめられました。

見直しの方向性は…

- ① 乗り継ぎをなくす路線への変更
- ② 均一運賃など、高齢者に分かりやすい運賃体系の導入
- ③ 利用者のライフスタイルに

あった運行ルートやダイヤの設定

- ④ 費用対効果や利用状況に見合った路線への転換

見直しの具体案は…

- 1 まちなか線を往復運行から周回運行へ

すまいるバスまちなか線のルートを、現在の往復運行から周回運行に変更。倉坂・古門・猪倉回り」と「泉水・永谷・神崎回り」を1台で1日7便運行します（5ページ右図）。

まちなか線「倉坂・古門・猪倉回り」は、くらじの郷から倉坂、古門、木月、上木月、弥生、猪倉、大池などを通るルートで、沿線の利用者が、鞍手駅や中央公民館、くらじの郷などへ直接行ける便を確

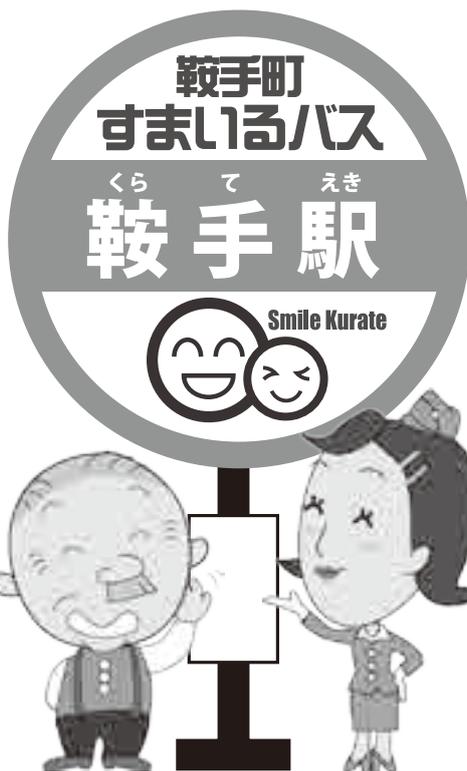
保します。

「泉水・永谷・神崎回り」は、くらじの郷から泉水、永谷、七ヶ谷、六反田、神崎、新延本村などを通るルートで、沿線の利用者が、鞍手駅や役場、中央公民館、町立病院などへ直接行ける便を確保します。また、すまいるバスの運行ルートのうち、町立病院から中央公民館までの間を県道直方・鞍手線を通るルートに変更します。これに伴い、「中本町」バス停を移動します。

なお、まちなか線運行ルートの変更に伴い、もやいたクシー古門線と泉水線は一時休止とします。

- 2 すまいるバス運賃を200円均一に

まちなか線を周回運行に変



- 3 もやいたクシー長谷線を町立病院まで延長

更することにより、距離別で運賃を決めることが難しくなることから、みやわか線を含めて、一律200円の均一運賃を導入します（小学生以下の子どもや障害者手帳を持っている人は、半額の100円）。これに伴い、運賃は乗車のとときに支払うようになります。また、現在の距離別運賃で、最も安い場合が160円であることから、回数券のプレミアム（上乗せ部分）を現在の100円から200円にし、また、すまいるバス1千200円分の乗車が可能）。

なお、75歳以上の運賃割引や定期券、フリーパス券については、平成25年4月運用開始を目標に、今後検討します。

- 4 中山・中間線（中間系統）への赤字補てん金を廃止

西鉄バス中山・中間線のうち、中間系統（69番線）の平

